



## 好きこそ物の上手なれ

茨城県工業技術センターの加藤 健さんからバトンを受け取りました株式会社豊田中央研究所の加藤雄一と申します。もしかしたら前回のエッセイでお気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、実は茨城県工業技術センターの加藤さんは私の弟です。私たち兄弟は高校の一時は進路が文系、理系と全く異なっていたのですが、あれよあれよといううちに、なんと今は所属学会まで同じという奇遇な状況にあります。当初は内輪でふさわしくないかなとも思いましたが、産官で分野も異なることから今回お引き受けさせていただくことにしました。

私事で恐縮ですが、4歳になる息子は乗り物好きで最近蒸気機関車が専門のようです。昭和のSL映像を繰り返し見ているのは、ナレーションをほぼ暗記しているほどの鉄分(鉄道マニアの度合い)の濃さです。なかでも銘板、ナンバープレート(写真)が好みようで、私に呼称するようによくせがまれます。私は何の気なしに、「しーじゅういち ひゃくきゅうじゅう(C11 190)だね。」と言うと、息子はちょっと頭をかしげて、「ちがう、ちがう! しーじゅういち形、ひゃくきゅうじゅう号機だよ!」と見事に訂正されてしまいました。息子の愛読書<sup>1)</sup>を拝借して調べてみると、Cは動輪軸の数(B:2軸, C:3軸, D:4軸, E:5軸)、11は形式(10~49:タンク機関車, 50~99:テンダー(炭水車)機関車)、190は製造番号・通し番号ということで、おっしゃる通り正確にはC11形190号機。自身が生返事をしていたことに反省させられます。好きこそ物の上手なれとはよく言いますが、呼び方を通じて蒸気機関車への興味が湧いてきました。

さて、私は普段ラマンや赤外などの分光分析に従事しておりますが、過日呼び方にまつわる疑問に遭遇しました。それは他部署の方からの質問が発端となりました。とある学会で学生さんがラマンスペクトルを説明する際に、「〇〇カイザー( $\text{cm}^{-1}$ )付近に〜」と発表されたそうです。その後の質疑応答で、「教育的観点からは、カイザーはふさわしくない。」とのコメントがあったそうです。残念ながらその場ではそれ以上のやり取りはなかったため、「 $\text{cm}^{-1}$ はどう呼ぶべきか?」ということが疑問になったそうです。

私自身、pHについては「ピーエイチ<sup>2)</sup>」と注意して読んでいたのですが、 $\text{cm}^{-1}$ は「カイザー」と呼ぶことが日常であり、完全に慣れてしまっていました。それで適切な呼び方は何かを調べてみると、案外身の回りの書籍類に掲載されていないことに気づきました。大学時代の量子化学の教科書に載っていた気がするという自身の拙い記憶を元に調べてみると、東北大学名誉教授の安積徹先生の講義ノート(現在、分子科学会のアーカイブから「学部学生のための量子化学講義ノート」として掲載<sup>3)</sup>)中のCoffee Breakの一節にどんぴしゃりの内容が掲載されていました。昔は $\text{cm}^{-1}$ のことを、分光学に大きな貢献をしたドイツの物理学者であるHeinrich Kayserの名前を取って、「カイザー」と呼んでいたそうですが、一つの単位とその逆数とが別々の名前で呼ばれるのは混乱を招くもともになるということで廃止されたそうです(但し、ドイツ国内ではまだKayserが使われているようです)。それでは $\text{cm}^{-1}$ はなんと発音すればよ



写真 大井川鉄道新金谷駅のSLフェスタにて撮影したC11形190号機

いかと言えば、“reciprocal centimeter”(りしぷろかるせんちみーたー;  $\text{cm}$ の逆数)という言い方がよく用いられているようです。普段何気なく使っていた単位も、その歴史を知ることによって愛着が湧いてくるような気になりました。好きこそ物の上手なれという気持ちを持つことが大切だと思わされるような機会でした。

さて次回のリレーエッセイは、2015年の産業界シンポジウムで出会った資生堂グローバルイノベーションセンターの本山 晃様にバトンをつなぎたいと思います。自身も参画させていただいております産業界シンポジウム企画運営委員会は2014年に新設され、現在、宮野博委員長(味の素株式会社)、内山一美副会長(首都大学東京)を中心とした約25名の委員で活動しております。分析年会や分析化学討論会での産業界シンポジウムや産業界交流ポスターを通じて、産業界からの発信だけでなく、産官学の交流・連携、学生さんへの産業界の訴求として大変貴重な機会になっていると思っております。本山さんとは2015年の産業界シンポジウムのご講演「化粧品研究における質量分析～原料評価から皮膚成分の網羅解析まで～」が交流するきっかけになり、本山さんのご研究に対する熱い思いに刺激を受け、目指す姿として勉強させていただいております。今回、初対面から間もない状況での大変厚かましいお願いにもかかわらず、快くお引き受けいただきまして、本当にありがとうございます。本山さんのエッセイを拝読できることを楽しみにしております。

## 文 献

- 1) 日比政昭：“蒸気機関車完全名鑑”，第146号，(2009)，(廣済堂ベストムック)。
- 2) 津村ゆかり：“よくわかる最新分析化学の基本と仕組み”，第2版，(2016)，(秀和システム)。
- 3) 安積 徹：“学部学生のための量子化学講義ノート 前編”，第2版，p. 36 (2008)，(分子科学会)。(単位の発音に関する他の事例も挙げられており、大変勉強になりました。)

〔株〕豊田中央研究所 加藤雄一